

柏の景気情報（平成20年10月分）

○ 調査期間 : 平成20年10月20日 ~ 10月24日

○ 調査対象 : 柏市内112事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	112	78	69.6%
建設	19	15	78.9%
製造	26	17	65.4%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	24	16	66.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年10月の調査結果のポイント】

〈柏の業況DIが60ポイントへ突入 全国値よりわずかに下まわる〉

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲65.3(前月水準▲55.1)となり、マイナス幅が▲10.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲66.6(同▲75.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲68.7(同▲50.0)、卸小売業▲63.3(同▲48.2)、製造業▲64.7(同▲52.9)である。

【建設業】では原材料高騰や受注減少に関するコメントも寄せられたが、他に、「従業員の数だけは適正ですが、新人が多く売上等に繋がる人材が不足しています。通常ですと人材を育てていくのですが、利益幅が減少している今の業況ですと、その余裕もありません。1件でも多く訪問して、どんな小さな仕事でも受けている状況です。自然残業時間及び賃金が多くなりそれも問題です」(家庭用機械器具小売業)、「マスコミの情報などでは悪くなる一方に思えてしまう。惑わされることなく自社の使命を確実に行っていきたいものです」(板金・金物工事業)といったコメントも寄せられた。

【製造業】では、受注減少についてのコメントも複数あったが、他に「材料の値上げの前の仮需あり、売上が伸びた」(紙製容器製造業)「受注を含め引き合いの件数も少なくなった。また取引先からも「仕事量が底をついた感がある」「景気が良い業界は聞こえない」などの声がある。世間全体が冷え込んできた」(その他の機械・同部分品製造業)等のコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「思うように売上はできませんが、まだ気候が季節通りに安定しているのは救いです」(菓子・パン小売業)「客単価の低下、客数の減少、購買頻度の減少等、マイナス要因ばかりが目立っている。これから暮れに向かうが、さらに景況は悪くなるような気がする」(その他の各種商品小売業)、など厳しい業況に関するコメントが寄せられ、一方で「10月度は10/1に新館がオープンし、開業後1週間は午前中から年齢層の高めのお客様も多く、飲食フロアを中心に好調に推移、2週目からは30代男女の来店も増え、買上率も上昇した」(各種商品小売業)、「10月からの「柏の一店逸品フェア」が始まり当店ではカツバーガーをデビューさせた。作り置きをしないで注文を受けてから作ります。4～5分で完成するので、その間店内の商品を見ながら、もう一品肉などを買って下さるお客様が結構居て、店全体の来客数売り上げ共に増加している」(食肉小売業)といった、明るい声も寄せられた。

【サービス業】は「宿泊は外国人客減、稼働も微減、売上微減。宴会も大きく減。特に宴集会在が厳しい。件数及び一件当たり人数減」(ホテル)「廃業等を含め商店会及び業界団体等の脱退の申し入れが何店舗か出されている。経費の見直しが始まっているのか？年末は頑張りたい」(酒場・ビヤホール)など、いずれも厳しい業況の悪化についてコメントが寄せられた。しかし「毎年ごとに状況は悪化している現状、世界的不況の今、だれしもが先行きの不安を考えている。その中でどの業種も増えすぎている現在すべてにおいて見直し、原点に戻って店の独自性を持って特色を生かし、今の時期こそしっかりとしたものを築いて行きたいと考えています」(そば・うどん店)など、経営見直しなど前向きなコメントも寄せられた。

◎受注減少

各業種から「本体業者の受注減少」(管工事業(さく井を除く))「建築に伴う工事の受注が減っている。価格も抑えられているので、賃金に影響が出ている」(電気工事業)「受注を含め引き合いの件数も少なくなった。また取引先からも「仕事量が底をついた感がある」「景気が良い業界は聞こえない」などの声がある。世間全体が冷え込んできた」(その他の機械・同部分品製造業)「建築着工件数が著しく減少している。マンションも全く売れていない」(生コンクリート製造業)という声が多くあがってきている。

◎原材料高騰と価格転

各業種から「原油価格が下がってもすぐには材料は安くなっていない」(一般土木建築工事業)「原油高に関しては、そんなに困ってはいないが、販売の方はなかなか高く売れないので原材料の高騰に大変苦労しております。売り掛けも長く、6か月以上のものも多くあるので、支払に困ることもありなかなか大変です」(その他の職別工事業)「各元売とも5～6円の値下げでスタート。灯油市況も同じ。各販売店の本音は今までの大幅な値上げを転嫁できていないため、できるだけ値下げは遅らせたいとの思いで一致」(燃料小売業)「燃料費は2～3か月前よりは低減しているものの、未だ経営上高コストとなっている。サーチャージが認めて頂けない状況である」(一般貨物自動車運送業)といった声が寄せられた。

◎金融不安からの購買意欲低下

各業種から「世界的な株安や景気の後退が消費マインドをマイナスの方向にひいている感があります」(食料・飲料卸売業)「原油価格・商品先物も一時より低下していますが、仕入れ価格・販売価格の低下には当面ながら繋がらないかと思えます。金融証券市場の混乱などそれに端を発する世界同時不況は、深刻な影響を及ぼすと考えられます。一時の潤いは求めても、生活のベースは慎重であると思われます」(百貨店)「金融の不安、株価の下落等により、売り先の不透明、購買意欲の減退、この現象が前月より増してきています」(食料・飲料卸売業)コメントが多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲34.2	▲42.8	▲5.2	▲40.7	▲50.0
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
見通し	▲51.2	▲66.6	▲52.9	▲50.0	▲37.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲65.3(前月水準▲55.1)となり、マイナス幅が▲10.2ポイント拡大した。

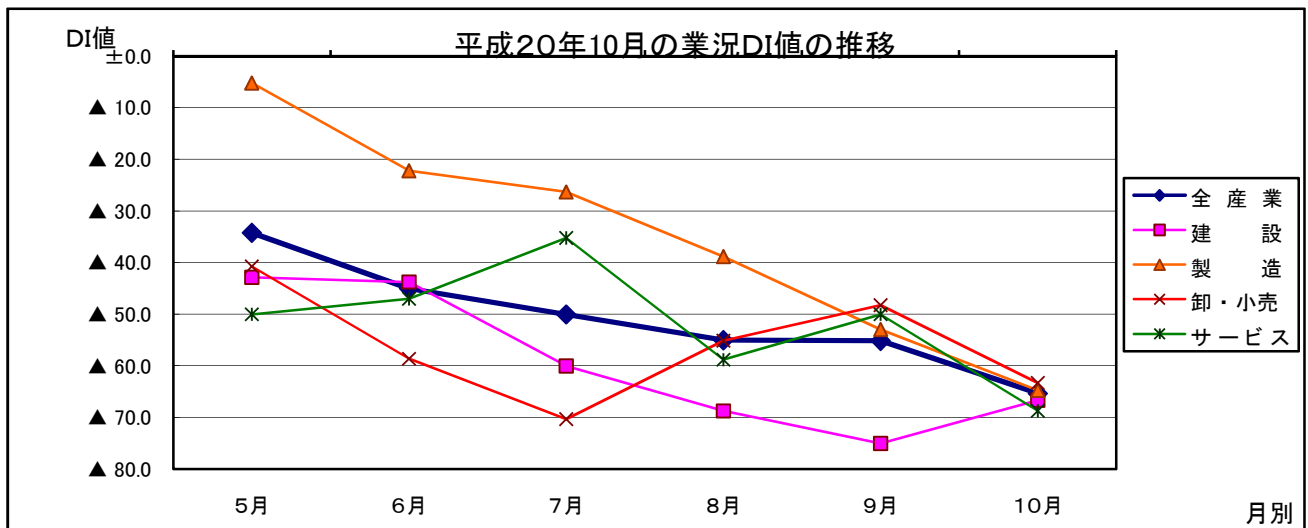
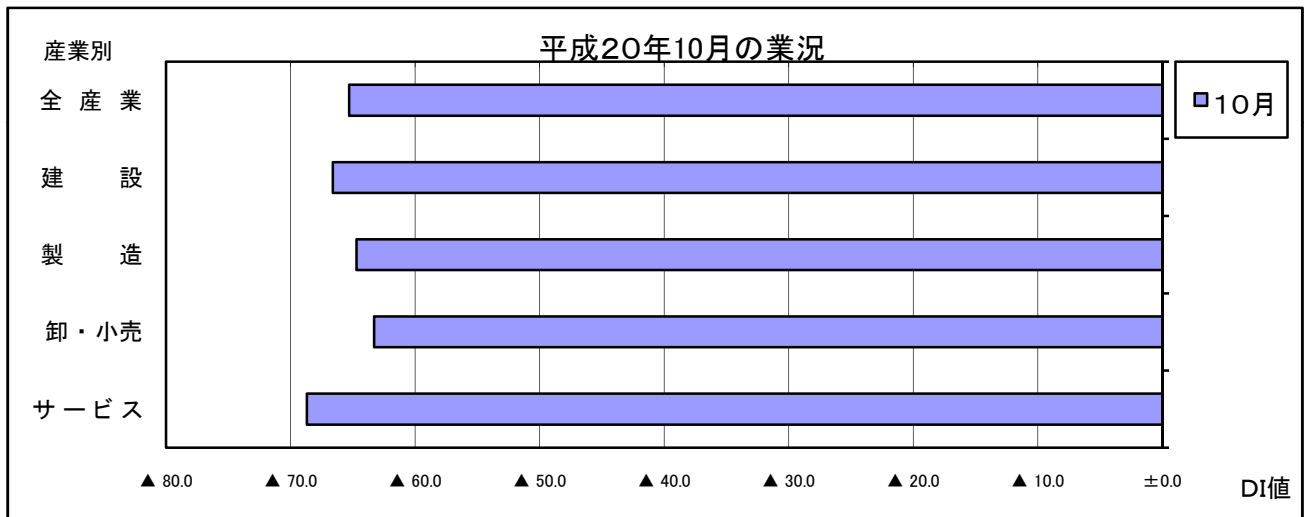
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲66.6(同▲75.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲68.7(同▲50.0)、卸小売業▲63.3(同▲48.2)、製造業▲64.7(同▲52.9)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲51.2(前月水準▲43.5)となり、マイナス幅が▲7.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲37.5(同▲43.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲44.8)、製造業▲52.9(同▲41.1)、建設業▲66.6(同▲43.7)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲22.9ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲34.2	▲45.0	▲50.0	▲55.0	▲55.1	▲65.3	▲51.2(▲43.5)
建設	▲42.8	▲43.7	▲60.0	▲68.7	▲75.0	▲66.6	▲66.6(▲43.7)
製造	▲5.2	▲22.2	▲26.3	▲38.8	▲52.9	▲64.7	▲52.9(▲41.1)
卸・小売	▲40.7	▲58.6	▲70.3	▲55.1	▲48.2	▲63.3	▲50.0(▲44.8)
サービス	▲50.0	▲47.0	▲35.2	▲58.8	▲50.0	▲68.7	▲37.5(▲43.7)



【平成20年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.7(前月水準▲26.9)となり、マイナス幅が▲12.8ポイント拡大した。

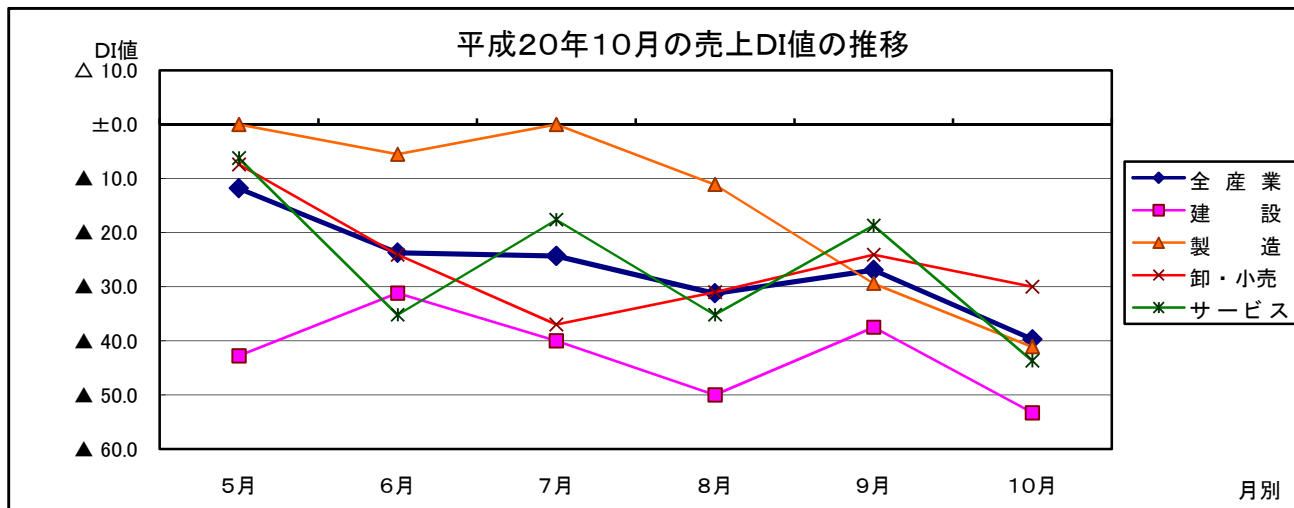
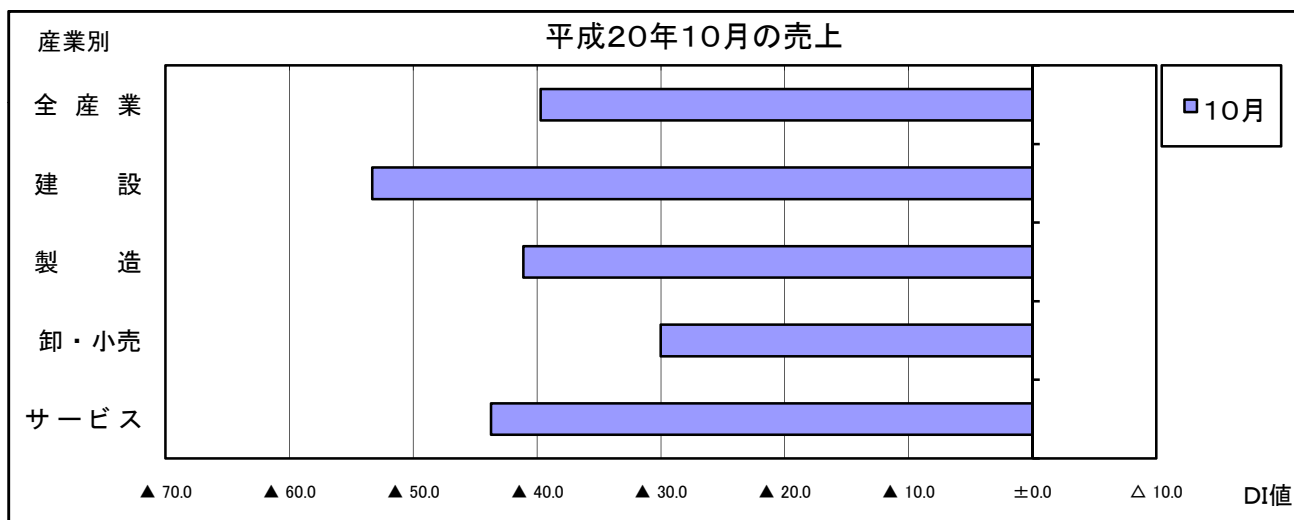
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種において、マイナス幅が拡大し、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲18.7)、建設業▲53.3(同▲37.5)、製造業▲41.1(同▲29.4)、卸小売業▲30.0(同▲24.1)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲25.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.9(前月水準▲25.6)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲16.6(同▲31.0)、製造業▲17.6(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲53.3(同▲25.0)、サービス業▲31.2(同▲18.7)である。特に、建設業はマイナス幅が▲28.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲11.8	▲23.7	▲24.3	▲31.2	▲26.9	▲39.7	▲26.9(▲25.6)
建設	▲42.8	▲31.2	▲40.0	▲50.0	▲37.5	▲53.3	▲53.3(▲25.0)
製造	±0.0	▲5.5	±0.0	▲11.1	▲29.4	▲41.1	▲17.6(▲23.5)
卸・小売	▲7.4	▲24.1	▲37.0	▲31.0	▲24.1	▲30.0	▲16.6(▲31.0)
サービス	▲6.2	▲35.2	▲17.6	▲35.2	▲18.7	▲43.7	▲31.2(▲18.7)



【平成20年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲51.2(前月水準▲48.7)となり、マイナス幅が▲2.5ポイント拡大した。

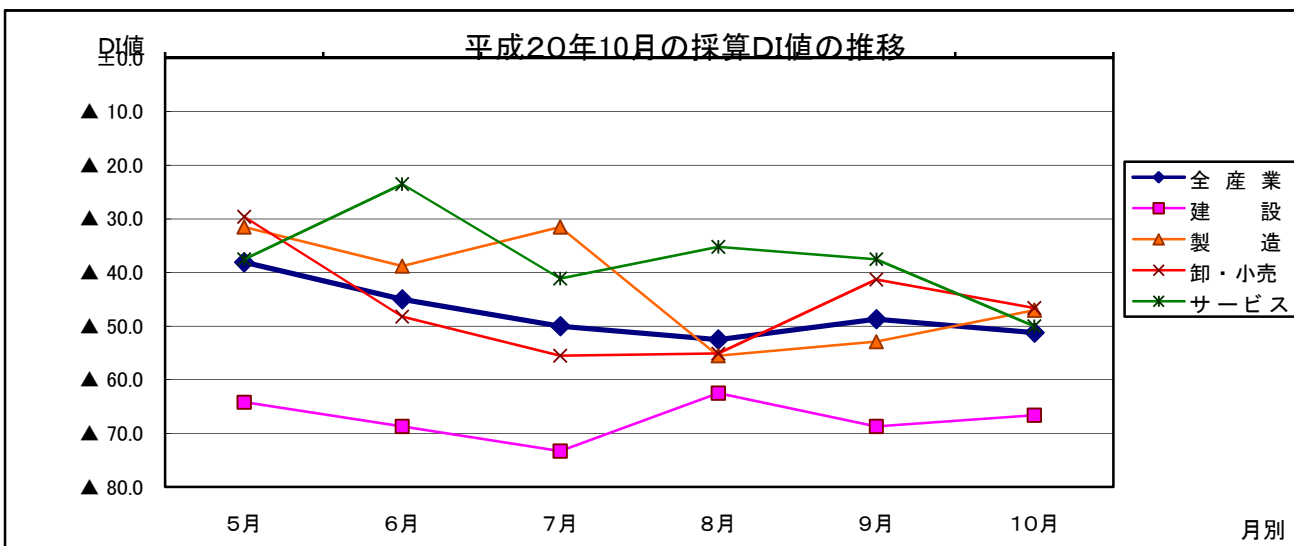
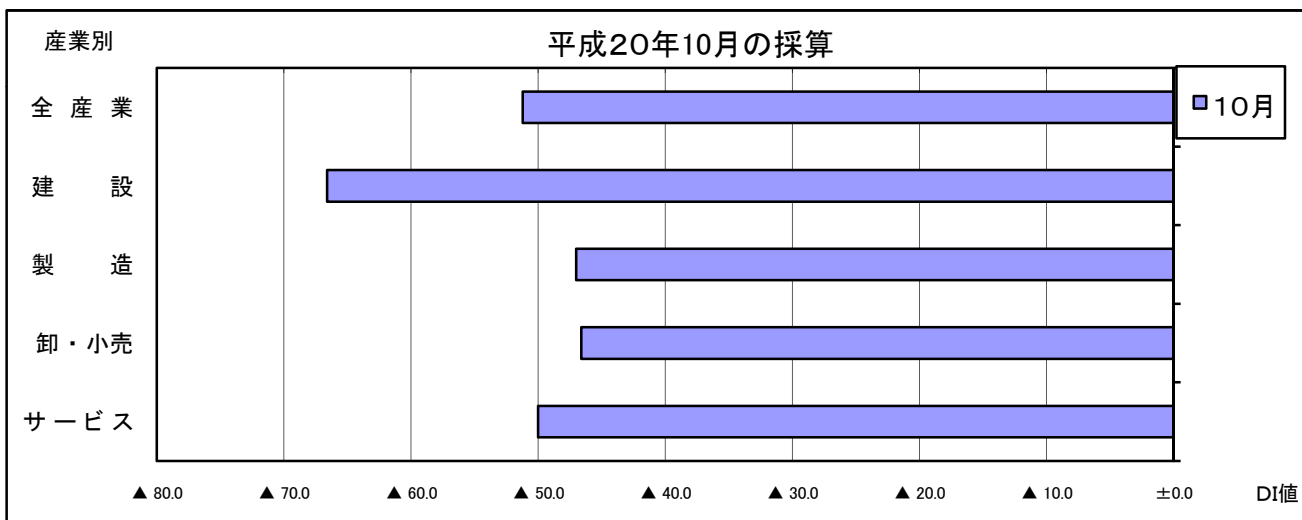
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲47.0(同▲52.9)、建設業▲66.6(同▲68.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲37.5)、卸小売業▲46.6(同▲41.3)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲43.5(前月水準▲38.4)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36.6(同▲44.8)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲66.6(同▲43.7)、製造業▲52.9(同▲35.2)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲22.9ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲38.1	▲45.0	▲50.0	▲52.5	▲48.7	▲51.2	▲43.5(▲38.4)
建設	▲64.2	▲68.7	▲73.3	▲62.5	▲68.7	▲66.6	▲66.6(▲43.7)
製造	▲31.5	▲38.8	▲31.5	▲55.5	▲52.9	▲47.0	▲52.9(▲35.2)
卸・小売	▲29.6	▲48.2	▲55.5	▲55.1	▲41.3	▲46.6	▲36.6(▲44.8)
サービス	▲37.5	▲23.5	▲41.1	▲35.2	▲37.5	▲50.0	▲25.0(▲25.0)



【平成20年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲47.4(前月水準▲65.3)となり、マイナス幅が△17.9ポイント縮小した。

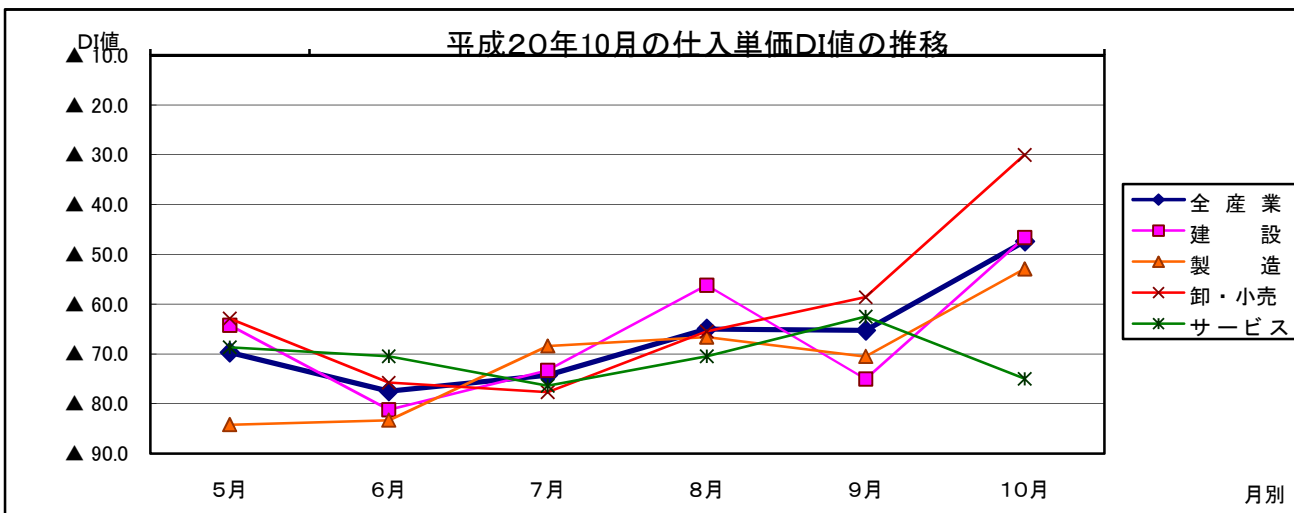
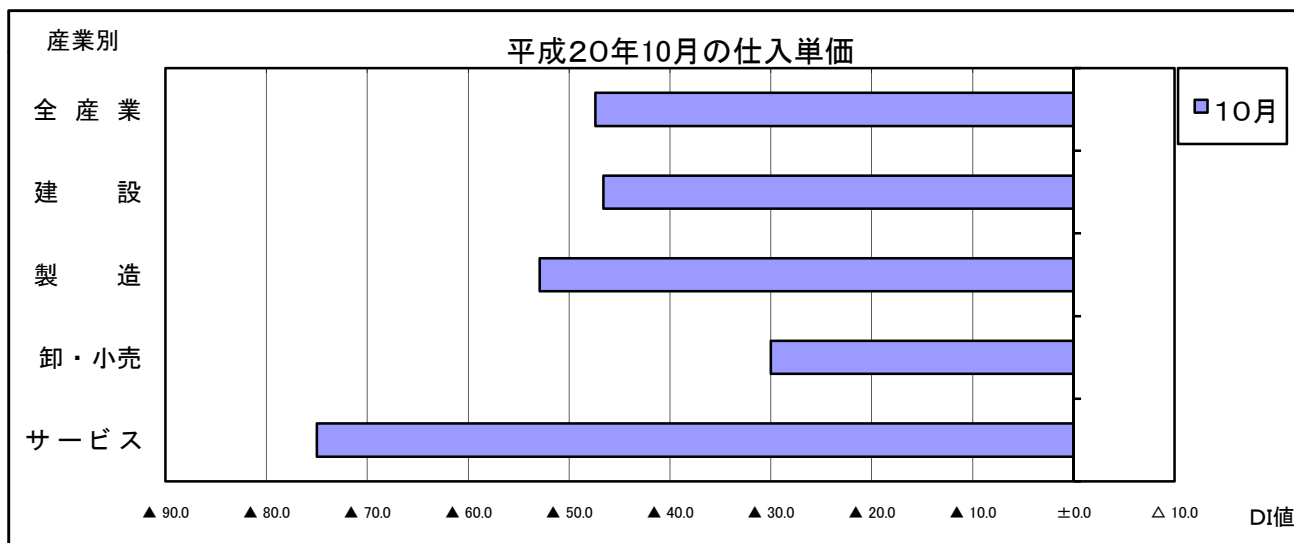
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.0(同▲58.6)、建設業▲46.6(同▲75.0)、製造業▲52.9(同▲70.5)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△28.6ポイント、建設業はマイナス幅が△28.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲75.0(同▲62.5)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.4(前月水準▲52.5)となり、マイナス幅が△23.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲16.6(同▲51.7)、建設業▲26.6(同▲56.2)、製造業▲35.2(同▲52.9)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△35.1ポイント、建設業はマイナス幅が△29.6ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、サービス業▲50.0(同▲50.0)である。

平成20年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲69.7	▲77.5	▲74.3	▲65.0	▲65.3	▲47.4	▲29.4(▲52.5)
建設	▲64.2	▲81.2	▲73.3	▲56.2	▲75.0	▲46.6	▲26.6(▲56.2)
製造	▲84.2	▲83.3	▲68.4	▲66.6	▲70.5	▲52.9	▲35.2(▲52.9)
卸・小売	▲62.9	▲75.8	▲77.7	▲65.5	▲58.6	▲30.0	▲16.6(▲51.7)
サービス	▲68.7	▲70.5	▲76.4	▲70.5	▲62.5	▲75.0	▲50.0(▲50.0)



【平成20年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.2(前月水準▲1.2)となり、前月と同数値となった。

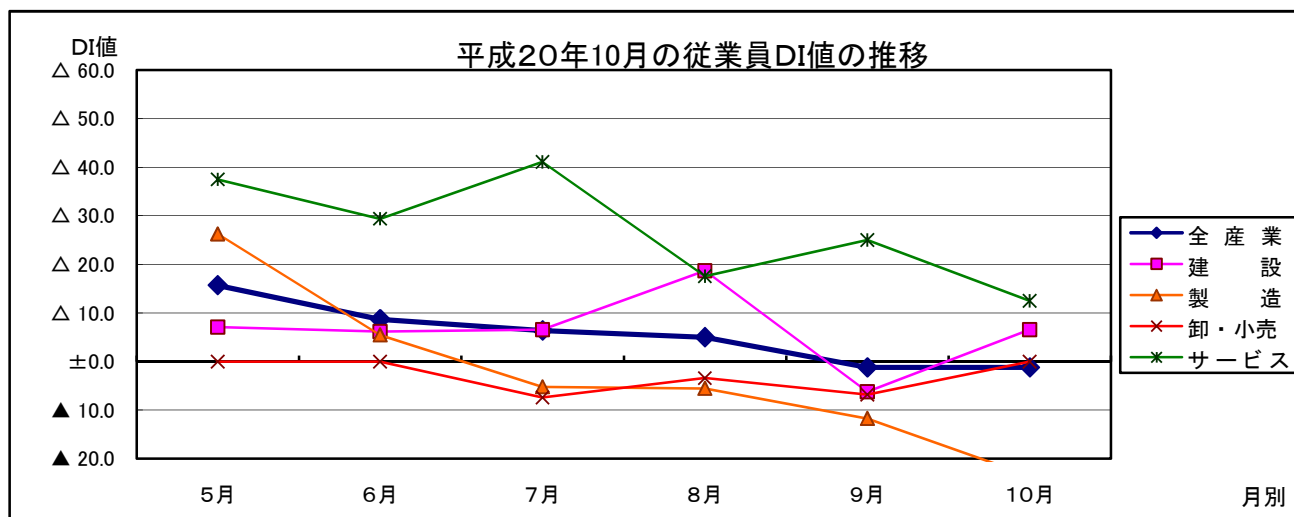
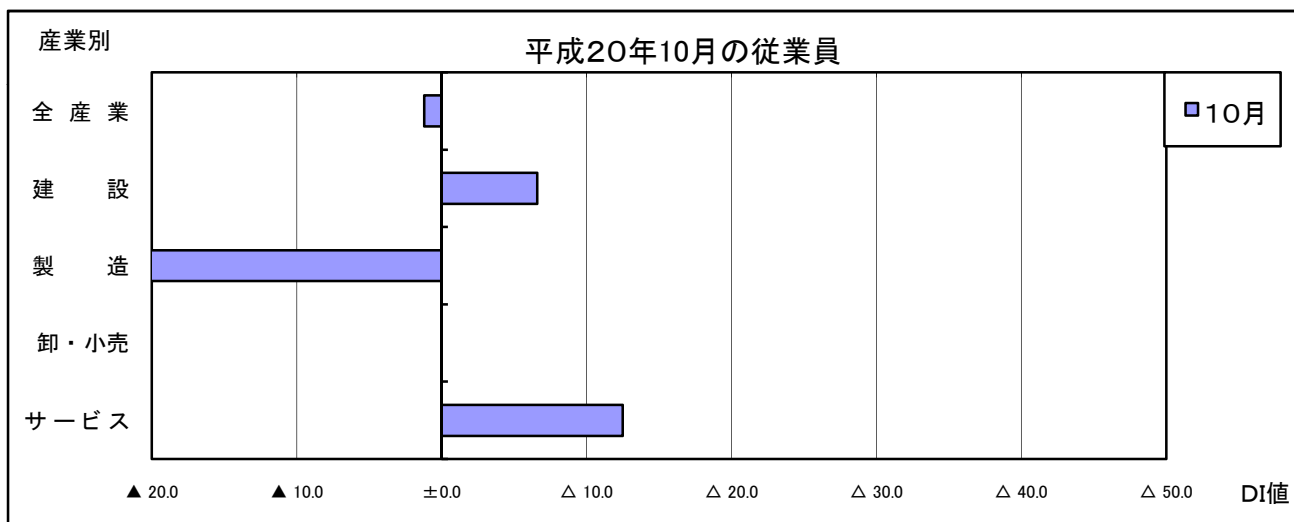
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△6.6(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業±0.0(同▲6.8)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△12.5(同△25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲23.5(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.5(前月水準△2.5)となり、前月と同数値となる見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△6.6(同▲18.7)で、ポイントが25.3拡大する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△18.7(同△25.0)、卸小売業△6.6(同△10.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲23.5(同▲11.7)である。

平成20年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	△15.7	△8.7	△6.4	△5.0	▲1.2	▲1.2	△2.5(△2.5)
建設	△7.1	△6.2	△6.6	△18.7	▲6.2	△6.6	△6.6(▲18.7)
製造	△26.3	△5.5	▲5.2	▲5.5	▲11.7	▲23.5	▲23.5(▲11.7)
卸・小売	±0.0	±0.0	▲7.4	▲3.4	▲6.8	±0.0	△6.6(△10.3)
サービス	△37.5	△29.4	△41.1	△17.6	△25.0	△12.5	△18.7(△25.0)



【平成20年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.7(前月水準▲26.9)となり、マイナス幅が▲3.8ポイント拡大した。

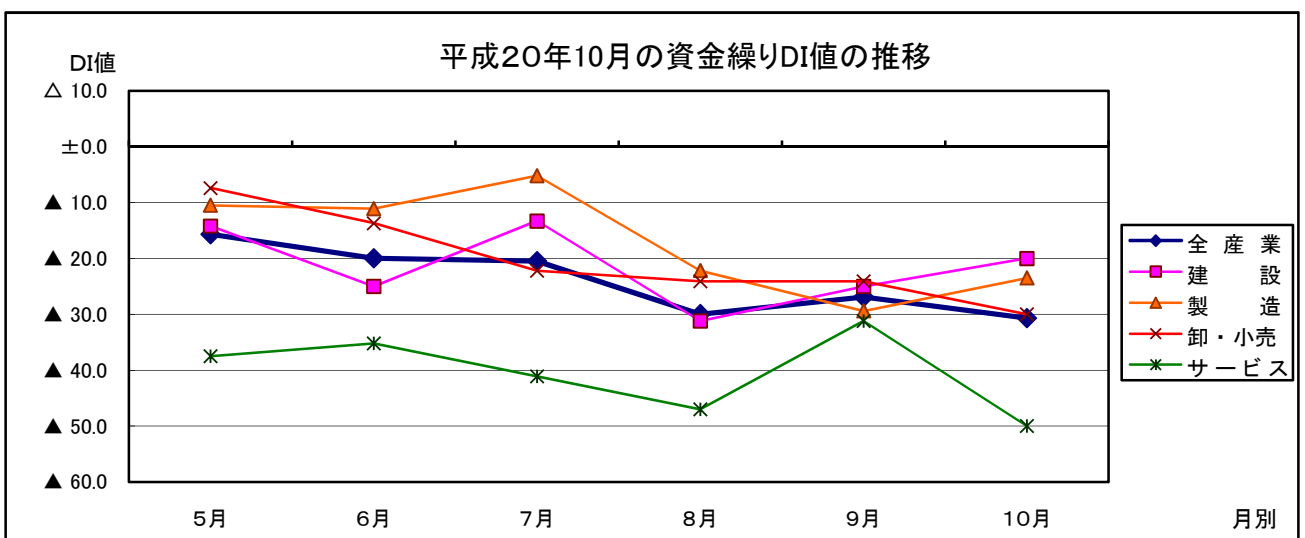
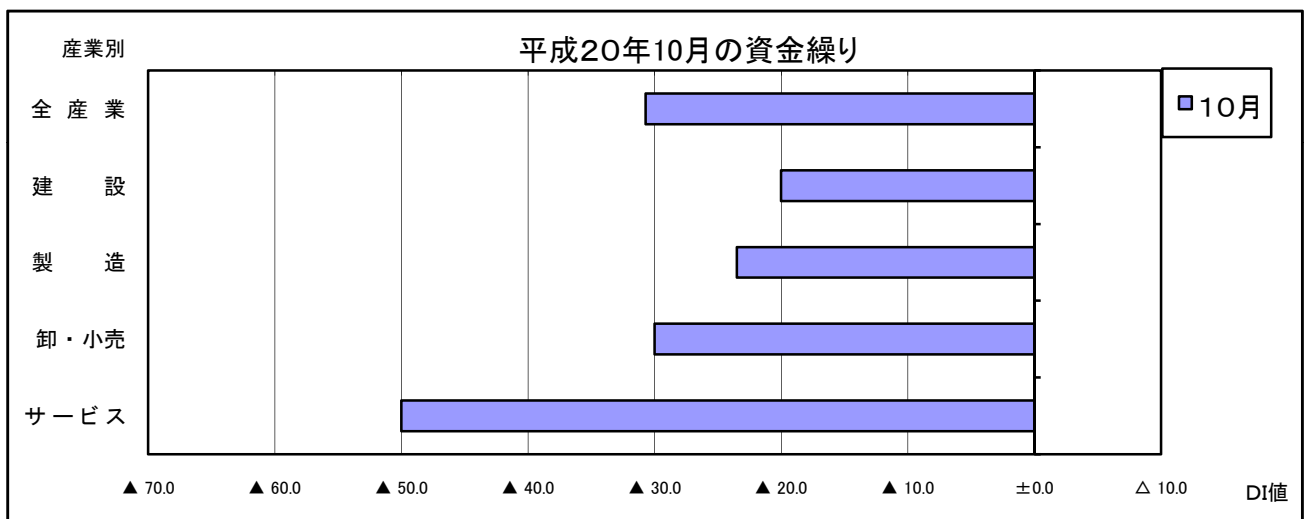
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.5(同▲29.4)、建設業▲20.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲31.2)、卸小売業▲30.0(同▲24.1)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.7(前月水準▲26.9)となり、マイナス幅が▲3.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲37.5)である。変らない見通しの業種は、製造業▲23.5(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲25.0)、卸小売業▲33.3(同▲24.1)である。

平成20年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲15.7	▲20.0	▲20.5	▲30.0	▲26.9	▲30.7	▲30.7(▲26.9)
建設	▲14.2	▲25.0	▲13.3	▲31.2	▲25.0	▲20.0	▲40.0(▲25.0)
製造	▲10.5	▲11.1	▲5.2	▲22.2	▲29.4	▲23.5	▲23.5(▲23.5)
卸・小売	▲7.4	▲13.7	▲22.2	▲24.1	▲24.1	▲30.0	▲33.3(▲24.1)
サービス	▲37.5	▲35.2	▲41.1	▲47.0	▲31.2	▲50.0	▲25.0(▲37.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 39.7	▲ 26.9	▲ 51.2	▲ 43.5	▲ 47.4	▲ 29.4	▲ 1.2	△ 2.5
建設	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 66.6	▲ 66.6	▲ 46.6	▲ 26.6	△ 6.6	△ 6.6
製造	▲ 41.1	▲ 17.6	▲ 47.0	▲ 52.9	▲ 52.9	▲ 35.2	▲ 23.5	▲ 23.5
卸・小売	▲ 30.0	▲ 16.6	▲ 46.6	▲ 36.6	▲ 30.0	▲ 16.6	±0.0	△ 6.6
サービス	▲ 43.7	▲ 31.2	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 75.0	▲ 50.0	△ 12.5	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 65.3	▲ 51.2	▲ 30.7	▲ 30.7
建設	▲ 66.6	▲ 66.6	▲ 20.0	▲ 40.0
製造	▲ 64.7	▲ 52.9	▲ 23.5	▲ 23.5
卸・小売	▲ 63.3	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 33.3
サービス	▲ 68.7	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 25.0

【平成20年10月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	原油価格が下がってもすぐには材料は安くなっていない マスコミの情報などでは悪くなる一方に思えてしまう。惑わされることなく自社の使命を確実にやっていきたいものです。	・原材料高騰	一般土木建築工事業 板金・金物工事業
	原油高に関しては、そんなに困ってはいないが、販売の方はなかなか高く売れないので原材料の高騰に大変苦労しております。売り掛けも長く、6か月以上のものも多くあるので、支払に困ることもありなかなか大変です。	・原材料高騰 ・価格転嫁 ・売上不振 ・資金繰り難	その他の職別工事業
	本体業者の受注減少	・受注減少	管工事業(さく井を除く)
	従業員の数だけは適正ですが、新人が多く売上等に繋がる人材が不足しています。通常ですと人材を育てていくのですが、利益幅が減少している今の業況ですと、その余裕もありません。1件でも多く訪問して、どんな小さな仕事でも受けている状況です。自然残業時間及び賃金が多くなりそれも問題です。	・人材育成 ・人件費増加	家庭用機械器具小売業
	ガソリンは値下がりがりしたものの、材料の電線等は値上がりしたまま。建築に伴う工事の受注が減っている。価格も抑えられているので、賃金に影響が出ている。	・原材料高騰 ・受注減少 ・人件費増加	電気工事業
製造	材料の値上げの前の仮需あり、売上が伸びた。 建築基準法の改正が11月から実施となり、確認申請が混乱すると同時に景気が減退傾向にあり、ますます先行きが不透明となっていくように思わ	・値上げ前仮需要 ・建築基準法 ・先行き不安	紙製容器製造業 その他の設備工事業
	受注を含め引き合いの件数も少なくなった。また取引先からも「仕事量が底をついた感がある」「景気が良い業界は聞こえない」などの声がある。世間全体が冷え込んできた。	・受注減少 ・景気減退	その他の機械・同部分品製造業
	建築着工件数が著しく減少している。マンションも全く売れていない。	・受注減少	生コンクリート製造業
	世界的な株安や景気の後退が消費マインドをマイナスの方向にひいている感があります。	・金融不安 ・景気減退 ・購買意欲低下	食料・飲料卸売業
	原油価格・商品先物も一時より低下していますが、仕入れ価格・販売価格の低下には当面ながら繋がらないかと思えます。金融証券市場の混乱などそれに端を発する世界同時不況は、深刻な影響を及ぼすと考えられます。こうした中、物産展などはどの店舗も非常に好調ですが、一方ポイントアップや値引きを伴う優待販売は以前ほどのインセンティブにはなっていません。物産展など一時の潤いは求めても、生活のベースは慎重であると思われれます。	・物価高騰持続 ・金融不安 ・購買意欲低下	百貨店
	金融の不安、株価の下落等により、売り先の不透明、購買意欲の減退、この現象が前月より増してきています。果実野菜ともに、入荷減の単価安が続く、厳しい業況が今後とも予想されます。仕入れる顧客からの情報をもとに、販売にあたり、需要と供給のバランスを考えて努力し、消費者の要望に応えていきたい。	・金融不安 ・購買意欲低下 ・入荷減 ・厳しい業況 ・企業努力	食料・飲料卸売業

【平成20年10月の業種別業界内トピックス】

卸小売	思うように売上はできませんが、まだ気候が季節通りに安定しているのは救いです	・売上不振 ・気候安定	菓子・パン小売業
	紙製品の大幅な値上がりあり。予告なしの値上がりもあり、在庫ができないので苦労している。一般の消費者の買い控えへの傾向が増している。	・紙製品値上げ ・在庫不足 ・買い控え	その他の飲食料品小売業
	各元売とも5～6円の値下げでスタート。灯油市況も同じ。各販売店の本音は今までの大幅な値上げを転嫁できなていないため、できるだけ値下げは遅らせたいとの思いで一致。周辺市況を注目しながら戦々恐々としている10月である。今回スポットで大口納品があり。売り上げに貢献できた。	・原油値下げ ・価格転嫁	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	TXおおたかの森SC内の紀伊国屋書店の影響が落ち着いてきたら、東武柏駅構内に小さい書店が出店しそうです。		書籍・文房具小売業
	客単価の低下、客数の減少、購買頻度の減少等、マイナス要因ばかりが目立っている。これから暮れに向かうが、さらに景況は悪くなるような気がする	・客単価減少 ・客数減少 ・業況悪化	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	10月度は10/1に新館がオープンし、開業日は開店2時間前から開店待ち列ができ、新館だけで22,000人を超える来店客数となった。開業後1週間は午前中から年齢層の高めのお客様も多く、飲食フロアを中心に好調に推移、2週目からは30代男女の来店も増え、買上率も上昇した。S館専門店が新刊と2つのブリッジで接続されていることから、新館オープン景気の影響を受けて、売上・入店客数ともに好調に推移した。中旬以降は売上高は落込みを見せているが、SC全体では前年を大きく上回る見込みである	・新館開店 ・客数増加 ・買上率上昇	各種商品小売業
	柏の事務機器販売会社が先月倒産。貸しはがしが原因のよう。	・同業他社倒産	書籍・文房具小売業
サービス	10月からの「柏の一品逸品フェア」が始まり当店ではカツバーガーをデビューさせた。作り置きをしないで注文を受けてから作ります。4～5分で完成するので、その間店内の商品を見ながら、もう一品肉などを買って下さるお客様が結構居て、店全体の来客数売り上げ共に増加している。	・一品逸品 ・売り上げ増加	食肉小売業
	燃料費は2～3か月前よりは低減しているものの、未だ経営上高コストとなっている。サーチャージが認めて頂けない状況である。	・コスト高 ・価格転嫁	一般貨物自動車運送業
	宿泊：外国人客減、稼働も微減、売上微減。宴会：大きく減。特に宴集会が厳しい。件数及び一件当たり人数減	・宿泊減少 ・宴会減少 ・客単価減少	ホテル
	毎年ごとに状況は悪化している現状、世界的不況の今、だれしもが先行きの不安を考えている。その中でどの業種も増えすぎている現在すべてにおいて見直し、原点に戻って店の独自性を持って特色を生かし、今の時期こそしっかりとしたものを築いて行きたいと考えています	・業況悪化 ・先行き不安 ・独自性を見直し	そば・うどん店
西口一小通り商店会：廃業等を含め商店会及び業界団体等の脱退の申し入れが何店舗か出されている。経費の見直しが始まっているのか？年末は頑張りたい	・商店会員脱会 ・経費見直し	酒場・ビヤホール	

◎受注減少

- ・ 本体業者の受注減少 (管工事業(さく井を除く))
- ・ 建築に伴う工事の受注が減っている。価格も抑えられているので、賃金に影響が出ている。 (電気工事業)
- ・ 受注を含め引き合いの件数も少なくなった。また取引先からも「仕事量が底をついた感がある」「景気が良い業界は聞こえない」などの声がある。世間全体が冷え込んできた。 (その他の機械・同部分品製造業)
- ・ 建築着工件数が著しく減少している。マンションも全く売れていない。 (生コンクリート製造業)

◎原材料高騰と価格転嫁

- ・ 原油価格が下がってもすぐには材料は安くなっていない (一般土木建築工事業)
- ・ 販売の方はなかなか高く売れないので原材料の高騰に大変苦労しております。売り掛けも長く、6か月以上のものも多くあるので、支払に困ることもありません。なかなか大変です。 (その他の職別工事業)
- ・ ガソリンは値下がりしたものの、材料の電線等は値上がりしたまま。 (電気工事業)
- ・ 各元売とも5~6円の値下げでスタート。灯油市況も同じ。各販売店の本音は今までの大幅な値上げを転嫁できなっていないため、できるだけ値下げは遅らせたいとの思いで一致。 (燃料小売業(ガソリンスタンド含まず))
- ・ 燃料費は2~3か月前よりは低減しているものの、未だ経営上高コストとなっている。サーチャージが認めて頂けない状況である。 (一般貨物自動車運送業)

◎金融不安からの購買意欲低下

- ・ 世界的な株安や景気の後退が消費マインドをマイナスの方向にひいている感があります。 (食料・飲料卸売業)
- ・ 原油価格・商品先物も一時より低下していますが、仕入れ価格・販売価格の低下には当面ながら繋がらないかと思えます。金融証券市場の混乱などそれに端を発する世界同時不況は、深刻な影響を及ぼすと考えられます。こうした中、物産展などはどの店舗も非常に好調ですが、一方ポイントアップや値引きを伴う優待販売は以前ほどのインセンティブにはなっていません。物産展など一時の潤いは求めても、生活のベースは慎重であると思われま。 (百貨店)
- ・ 金融の不安、株価の下落等により、売り先の不透明、購買意欲の減退、この現象が前月より増してきています。果実野菜ともに、入荷減の単価安が続く、厳しい業況が今後とも予想されます。仕入れる顧客からの情報をもとに、販売にあたり、需要と供給のバランスを考えて努力し、消費者の要望に応えていきたい。 (食料・飲料卸売業)











平成20年10月のCCI LOBOとの比較











- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲65.3に対し、「CCI-LOBO」が▲64.6で、柏の方がマイナス幅が0.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業。若干ではあるが、全国値よりもポイントが悪化したのは、調査以来初と
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.7に対し、「CCI-LOBO」が▲52.9で、柏の方がマイナス幅が13.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が、全ての業種において良く、特に建設業・卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲51.2に対し、「CCI-LOBO」が▲59.1で、柏の方がマイナス幅が7.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種においてよく、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲47.4に対し、「CCI-LOBO」が▲55.1で、柏の方がマイナス幅が7.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業で10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.2に対し、「CCI-LOBO」が▲11.1で、柏の方がマイナス幅が9.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業で、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.7に対し、「CCI-LOBO」が▲41.3で、柏の方がマイナス幅が10.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業・製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。











平成20年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI





業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 65.3	 66.6	 64.7	 63.3	 68.7
CCI LOBO	 64.6	 71.1	 59.8	 64.4	 65.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 39.7	 53.3	 41.1	 30.0	 43.7
CCI LOBO	 52.9	 65.3	 47.7	 55.0	 52.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 51.2	 66.6	 47.0	 46.6	 50.0
CCI LOBO	 59.1	 70.1	 60.3	 53.9	 60.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 47.4	 46.6	 52.9	 30.0	 75.0
CCI LOBO	 55.1	 61.4	 62.5	 50.0	 53.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.2	 6.6	 23.5	 ±0.0	 12.5
CCI LOBO	 11.1	 28.6	 13.4	 3.3	 5.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.7	 20.0	 23.5	 30.0	 50.0
CCI LOBO	 41.3	 55.0	 43.8	 35.1	 40.2

黒枠は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目
グレーは「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(10月の調査結果のポイント)

調査期間：平成20年10月20日～24日

調査対象：柏市内112事業所及び組合にヒアリング、回答数 78

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲34.2	▲42.8	▲5.2	▲40.7	▲50.0
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
見通し	▲51.2	▲66.6	▲52.9	▲50.0	▲37.5

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行見通しDI

柏市の業況

柏の業況DIが60ポイントへ突入、全国値よりわずかに下まわる

10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、65.3(前月水準55.1)となり、マイナス幅が「10.2ポイント拡大した」。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業(66.6)同75.0である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業(68.7)同50.0、卸小売業(63.3)同48.2、製造業(64.7)同52.9である。

【建設業】では、原材料高騰や受注減少に関するコメントも寄せられたが、他に、「従業員の数だけは適正だが、新人が多く売上等に繋がる人材が不足している。通常だと人材を育てていくが、利益幅が減少している今の業況だと、その余裕もない。1件でも多く訪問して、どんな小さな仕事でも受けている状況。自然残業時間及び賃金が多くなりそれも問題」。マスコミの情報などでは悪くなる一方に思えてしまつた。惑わされることなく自社の使命を確実に実行していきたい(板金・金物事業)といったコメントも寄せられた。

【製造業】では、受注減少についてのコメントも複数あったが、他に「材料の値上げの前の仮需あり、売上が伸びた(紙製容器製造業)」。受注を急ぎ引き合の件数も少なくなつた。また取引先からも「仕事量が底をついた感がある」。景気が良い業界は聞こえない「などの声がある。世間全体が冷え込んできた(その他の機械・同部品製造業)等のコメントも寄せられている」。

【卸小売業】では、「思つたように売上はできないが、まだ気候が季節通りに安定しているのは救い(菓子・パン小売業)」。客単価の低下、客数の減少、購買頻度の減少等、マイナス要因ばかりが目立っている。これから春に向けて向かうが、やはり「景況は悪くなるよつな気がする(その他の各種商品小売業)等といった、厳しい業況に関するコメントが寄せられた」。

【サービス業】では、「宿泊は外国人客減、稼働も微減、売上も微減。宴会も大きく減。特に宴会会が厳しい。件数及び一件当たり人数減(ホテル)」。廃業等を含め、商店会及び業界団体等の脱退の申し入れが何店舗か出ている。経費の見直し、年末は頑張りたい(酒場・ビヤホール)など、いずれも厳しい業況の悪化についてコメントが寄せられた。しかし、「毎年ごとに状況は悪化している現状。世界的不況の今、だれしもが先行きの不安を考えている。その中でどの業種も増えずにきている現在すべてにおいて見直し、原点に戻つて店の独自性を持つて特色を生かす。今の時期こそしっかりとしたものを用意して行きたい(そば・うどん店)など、前向きなコメントも寄せられた」。

10月の景気キーワード

受注減少

多くの業種から「本体業者の受注減少(管工事業)さく井を除く」。建築に伴う工事の受注が減っている。価格も抑えられているので、賃金に影響(電気工事業)。「受注を含め引き合の件数も少なくなつた。また取引先からも、仕事量が底をついた感あり」。景気が良い業界は聞こえない「などの声がある。世間全体が冷え込んできた(その他の機械・同部品製造業)」。建築着上件数が著しく減少している。マンションも全く売れていない(生コンクリート製造業)という声が多くあがってきている。

原材料高騰と価格転嫁

多くの業種から「原油価格が下がつてもすぐには材料は安くなつていない(一般土木建築工事業)」。原油高に関しては、そんなに困つてはいないが、販売の方はなかなか高く売れないので、原材料の高騰に大変苦労。売り掛けも長く、6ヶ月以上ものも多々あるので、支払に困ることもありなかなか大変(その他の職別事業)。「各元売とも5～6円の値下げでスタート。灯油市況も同じ。各販売店の本音は今までの大幅な値上げを転嫁できていないため、できるだけ値下げは遅らせた」との思いで一致(燃料小売業)。「燃料費は2～3か月前よりは低減しているものの、

未だ経営上高コストとなっている。サーチャージが認められたい状況(一般貨物自動車運送業)といった声も寄せられた。

金融不安からの購買意欲低下

各業種から「世界的な株安や景気の後退が消費マインドをマイナスの方向にひいている感があります(食料・飲料卸売業)」。原油価格・商品先物も一時より低下していますが、仕入れ価格・販売価格の低下には当面ながら繋がらないかと思ひます。金融証券市場の混乱などそれに端を発する世界同時不況は、深刻な影響を及ぼすと考えられます。一時の潤いは求めても、生活のペースは慎重であると思われまふ(百貨店)。「金融の不安、株価の下落等により、売り先の不透明、購買意欲の減退。この現象が前月より増してきています(食料・飲料卸売業)等のコメントが寄せられた」。

CCI・LOBOSの比較

全産業合計では、「柏の景気」が65.3に対し、「CCI LOBOS」が64.6で、柏の方がマイナス幅が0.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業。

若干ではあるが、全国値よりもポイントが悪化したのは、調査以来初となった。

CCIO - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成20年10月20日～24日
 調査対象：全国の404商工会議所が2580業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況DI、採算DIは10年ぶりの低水準

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は前月水準(61.2)よりマイナス幅が3.4ポイント拡大して64.6となり、98年10月以来の低水準となった。

産業別の業況DIは、製造で横ばいだったものの、他の4業種はマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、原油価格の下落により、今後を期待といった声があるものの、各種原材料価格の高止まりや消費マインドの冷え込みにより、採算面では厳しい状況。また、米国金融危機の影響による先行きへの不安や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声が多くなっている。

【建設業】「米国金融危機の影響により、先行きへの不安感から工事発注が控えられるなど、建設業界は厳しい状況(建築工事業)」、「公共工事の大幅な減少に伴い低価格での受注競争が激化し、収益は悪化(一般工事業)」、「受注の減少が続く、建設・不動産関連業者の倒産が増加(電気工事業)」

産が増加(電気工事業)

【卸売業】「比較的好調であった自動車部品関連も除りが見え始め、前年比の売上も悪化(工業用プラスチック製造業)」
 「10月になり受注が極端に減少。年末年始にかけて資金繰りなどへの悪影響を懸念(金属加工機械製造業)」、「受注の減少に加え、発注先からはコストダウン要請が続く、採算は悪化(金属加工機械製造業)」

【小売業】「高額品の販売不振に加え、汚染米報道などの影響による食料品の売上悪化を懸念(百貨店)」、「米国金融危機に伴う先行きに対する不安感から、来客数が大幅に減少(その他の小売業)」、「先行きへの不安感や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などの悪影響を訴える声が増加(商店街)」

【サービス業】「売上の減少が続く一方、仕入価格の高騰により採算が悪化し、人件費を削減しなければならぬ状況(食堂・レストラン)」、「田舎の影響で外国人宿泊客が減少傾向(旅館)」、「原油高や米国金融危機の影響で顧客からサービス価格の値下げや取引中止要請が数件あり、厳しい状況(建物サービス)」

十月のキーワード

先行き不安感の拡大

各業種から、業況の悪化や、米国金融危機の影響に伴う先行きへの不安を訴える声が寄せられている。建設業からは「金融不安の影響による、金融機関の貸し渋りを懸念(酒田・一般工事業)」、「業況、資金繰りが悪化し、同業者の倒産が増加する見込み(一宮・建築工事業)」、製造業からは「10月より仕入価格が値上げされたが、現時点での販売価格への転換は困難なため、収益は悪化する見込み(岩沢・印刷業)」との声が寄せられている。また、小売業からは「今回の金融不安は予想以上に厳しい状況。お客様は必要な物だけしか購入せず、年末商戦に向けて大きな不安(函館・百貨店)、サービス業からは「消費の縮小や金融機関からの貸し渋りなど先行きは厳しく、年末年始特需も全く期待できない(銚子・他の一般飲食店)」との声も寄せられている。

仕入コストの高止まり

原油価格は下落しているものの、仕入コストは依然として高止まりで推移しており、各業種から採算への悪影響などを訴える声も寄せられている。建設業からは「油脂類が下落傾向にあるが、依然、鋼材等の調達価格は高く、採算は厳しい状況(根室・一般工事業)」、「低価格での受注競争が激しい中、コンクリート製品等の値上げが続いており、採算の悪化が著しい(倉吉・一般工事業)」、製造業からは「原材料価格の高騰により、厳しい経営状況が続いており、廃業を考えている」という声もある(八幡浜・水産食料品製造業)との声も寄せられている。また、小売業からも「ガソリン価格は落ち着きを見せられたが、商品の仕入価格は依然高止まりしており、年末まで売上は低迷する見込み(立山・百貨店)」といった声も寄せられている。

消費意欲の低下

食料品をはじめとする諸物価の高騰や、米国金融危機の影響に伴う今後への不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げ、声も寄せられている。製造業からは「原材料価格の高騰で厳しい状況だが、消費の低迷により値上げは困難(水戸・他の食料品製造業)」、小売業からは「金融不安は消費意欲に水を差し、高額商品の動きが停滞(金沢・百貨店)」、「食料品価格の上昇や先行きに対する不安感などから、消費者は必要な物しか買わない状況(銚子・商店街)」、サービス業からは「平日夜の来客が特に落ち込んでおり、消費意欲の低下が感じられる(館山・食堂・レストラン)」、「好大が続く、本来なら来店客が増えるはずだが、客数も伸び悩んでいる(赤穂・喫茶店)」といった声も寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲52.9	▲65.0	▲49.0	▲49.1	▲52.6	▲50.6
6月	▲56.0	▲67.7	▲52.4	▲52.6	▲57.7	▲51.2
7月	▲60.5	▲73.2	▲61.3	▲64.5	▲54.4	▲56.8
8月	▲58.8	▲71.4	▲55.4	▲64.7	▲58.9	▲51.4
9月	▲61.2	▲70.8	▲59.8	▲59.7	▲59.2	▲59.7
10月	▲64.6	▲71.1	▲59.8	▲63.8	▲64.4	▲65.9
見通し	▲60.5	▲66.4	▲59.3	▲57.4	▲60.9	▲58.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI